

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (朝日町) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 10 月 20 日 (木) 16 時 15 分～17 時 15 分

2. 対談場所

朝日町役場 2 階 大会議室
(朝日町大字小向 893 番地)

3. 対談市町名

朝日町 (朝日町長 栗田 康昭)

4. 対談項目

- 1 障がい者施設に対する支援について
- 2 教育分野の財政支援について
- 3 旧東海道まちなみ整備について

(1) あいさつ

知 事

今日は、栗田町長におかれましては、お忙しい中、お時間をいただきましてありがとうございます。

まずは、先般、5 月 26 日 27 日に行われました伊勢志摩サミットにおきましても、朝日町の皆さんに大変お世話になりました。5 月 15 日にごみゼロ運動をやっていただきましたし、花いっぱい作戦につきましては、縄生、朝日ヶ丘、柿、埋縄などの自治区の皆さんの御協力をいただきました。改めて感謝を申し上げます。

それから、今年の 4 月には、三師会 (医師会、歯科医師会、薬剤師会) と朝日町、川越町、菰野町との間で、災害時の医療救護活動に関する協定を締結されたと聞いています。熊本地震の直後であったと思いますが、やはりこういう災害に対する状況を、医療などにおいてしっかり整えておくというのは大変重要であると思っています。東日本大震災から 5 年を迎えてもなお復興途上でありますし、先般、国体も岩手で行われたわけですが、大規模災害が起きて避難が長期化してくると、間違いなく医療面のケアというのは重要になってまいりますし、初動においても重要になってくると思いますので、各地域で、広域で締結していただくというのは大変重要なことであろうと思っています。

今日は、3 つの議題をいただいておりますが、いずれも大変重要な話題であろうと思っていますし、この後、視察も行かせていただくということ

ですので、しっかり現場を見て、町長と議論をさせていただきたいと思っていますので、どうぞよろしく願います。

今日は、どうもありがとうございます。

朝日町長

知事、ありがとうございます。先ほど知事からもお話がありましたように、5月26日27日の伊勢志摩サミットは大変成功裡に終わられました。私も、一県民として心強い思いをいたしました。また、伊勢志摩だけでなく朝日町もよろしく願いたいという気持ちでおりますので、よろしく願いたいと思います。

私自身、昨年6月5日に就任をさせていただきまして、昨年10月4日に初めての1対1対談をさせていただきました。知事があさひ園の園児と接するときの温かい姿が今でも印象に残っています。

朝日町は現在、10,608人という人口になりました。平成22年国勢調査では35.3%と、全国で1番の人口の伸びとなりましたし、今年と去年には、総務省の住民基本台帳の人口動態で、0歳から14歳までの子どもたちが人口に占める割合が全国1位ということで、大変若い元気な町だと思っています。しかし一方で、この小さな町でも数多くの大きな課題が山積しています。

今日は、その中でも、3つの議題でぜひ知事のお力をお借りして、朝日町の将来というものをつくっていく必要があると思っておりますので、今日は短い時間ですが、どうぞよろしく願います。

(2) 対談

1 障がい者施設に対する支援について

朝日町長

1つ目には、「障がい者施設の支援について」、2つ目は、「特別支援教育における介助員・学習支援員の配置の支援」、それから、3つ目は、「旧東海道まちなみ整備について」、この3つについてよろしく願います。

そのうちの大きな1つ目ということで、障がい者施設に対する支援についてよろしく願います。

本年5月19日に、「社会福祉施設等施設整備費補助事業に関する要望」ということで、知事を訪問させていただきました。サミットが始まる1週間前でした。知事が大変お忙しい時期に貴重なお時間をいただきまして、本当にありがたく思いました。そのときにも力強いお言葉をいただき、重

ねてお礼申し上げます。

その際にも要望をさせていただきました、朝日町障がい者通所施設整備事業について、本日は障がい者施設に対する支援として、再度、要望をさせていただきます。

まず、1つ目ですが、項目として、本日ご視察いただきます朝日町障がい者通所施設であるひまわり作業所の紹介をさせていただきます。

2つ目に、ひまわり作業所の建て替えにあたり、現在進めています朝日町障がい者通所施設整備事業の経緯等について説明をさせていただきます。

最後に、事業を進めるにあたり、朝日町からの要望を挙げさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、ひまわり作業所について紹介いたします。

昭和47年に朝日町児童館として建設された建物を利用して、運営は朝日町社会福祉協議会に委託をして、就労継続支援B型のサービスを提供しています。就労継続支援B型であるため、町内企業等からの下請け作業を中心に活動しています。また、施設の特徴として、半数が障がい支援区分5以上の重度の障がい者の方が利用しているため、散歩等のレク活動を導入しながら支援を行っています。地域活動としては、保護者の協力を得ながら、町の文化祭への出展、ひまわりバザールの開催を行っています。特にひまわりバザールについては、町民の方にも幅広く来ていただいております。

そして、本題に入りますが、ひまわり作業所は昭和47年に建設された建物であるため、天井、壁等に老朽化が顕著に見られます。また、障がい者施設として建造されていないために建物の仕切り等がガラス製であり、この辺につきましても配慮が必要な状況になっています。そして、平成23年度に耐震診断を行い、改修が必要な状況となっています。視察する際には、危険な状況をぜひご覧いただきたいと考えています。

では、そのような経緯からスタートした朝日町障がい者通所施設の整備事業について、簡単に説明させていただきます。

平成23年11月に耐震調査を行い改修が必要となり、平成24年度から整備方針の協議を開始しました。保護者等と協議を行いまして、今後の社会資源の充実を考え、公募による民設民営方式としました。そして、平成28年3月に施設整備運営法人を決定したところです。朝日町障がい者通所施設事業で期待されますことは、途切れのない支援の実現として、施設の定員を15名から30名に拡大しました。今後、増えるであろう特別支援学校等の卒業生の受け皿としていきたいと思っています。

また、朝日町内における社会資源の充実として、本事業で日中活動の場

が確保されます。今後は、享受の場としてグループホーム等の整備が官民協働で行えるとも考えています。

障がい者に対する啓発として、今まで行っている地域に根ざした活動のほか、現在地での建替えであるため、隣接した小学校の児童に対しての啓発が行われると考えています。

最後に、朝日町から知事に要望をさせていただくわけですが、朝日町障がい者通所施設整備事業を行うには、選定された施設整備運営法人と朝日町だけでは困難が多々伴います。国、県からのバックアップを受けながら、真に官民協働で施設整備を行いたいと考えています。また、地域生活支援事業は、地域の特性、利用者の状況に応じた柔軟な事業を市町が主体となって計画的に実施することになっています。選定された施設整備運営法人と四日市圏で不足している相談支援事業を強化したいと考えています。

まとめさせていただきますと、現状、社会福祉施設等施設整備費補助事業及び地域生活支援事業につきましては満額補助でないため、市町に財政負担がかかるという状況です。どちらの事業も国、県からのバックアップがあつてこそ成立する事業と考えますので、ぜひ、温かい、厚い適切な予算措置をいただけるようお願い申し上げます。

知 事

障がい者の皆さんも住み慣れた地域で働きながら、いろんなサービスが利用できるということが極めて重要であると思っています。障がい者の分野も当然ながら、介護についても重要です。この地域包括システムもそうですが、なるべく住み慣れた地域で対応していくという福祉のあり方になりつつある中で、障がい者の分野においてこのように朝日町さんが積極的に取り組んでいただいていることは、大変ありがたいことだと思っています。

3点のうち1点目の平成29年度社会福祉施設等施設整備費補助事業の採択ということにつきましては、毎年度選定会議を行って翌年度の整備方針をつくっているわけですが、来年度である平成29年度分につきましては、7月を期限として整備計画を募集しましたので、事業者の事業計画の内容等を踏まえて適正に選定を行っていきたいと思っています。

このように県で選定をさせていただいても、国の予算が十分確保されずに、せっかく選定したのに十分に予算が確保できないという状況が最近続いておりまして、我々も大変厳しい状況であると思っています。

県としましては、今年の春、6月に行った国への要望活動や、近畿府県障害福祉主管課長会議での要望活動などで、国に対して積極的に予算措置を行うように要望してまいりました。来年度の国家予算の概算要求では、

社会福祉施設等施設整備費で約 100 億円の要求がされていますし、これは、昨年度の当初予算に比べれば 44%増になっています。また、平成 28 年度 2 次補正予算でも、障害福祉サービス等の基盤の整備・防犯対策の強化ということで約 118 億円が計上されています。これまで厳しい状況が続いていますが、しっかり国に対して、予算措置を行うようにということで、11 月に予定している秋の国への要望活動においてもしっかり要望していきたいと思っています。

それから、地域生活支援事業も、障がい者の皆さんの地域移行という意味では大変重要な予算であると思っていますが、これも先ほどの予算同様、国からの補助金が十分でない状況が続いておりますので、引き続き国に対して要望を行っていききたいと思います。昨年度に比べると、平成 29 年度国家予算の概算要求は 4.2%増えているということですので、しっかり予算措置を要望していきたいと思っています。この事業は、国が 2 分の 1、県が 4 分の 1、市町が 4 分の 1 となっていますので、国がしっかり出してくれないと県も出せないという状況になりますので、ぜひ、国に対してしっかり要望していきたいと思っています。

朝日町長

6 月に要望させていただいたときも、知事が「わかりました」ということで、国に対して大きく要望させていただいたことをありがたく思っています。

今の活動の中で、今年状況を見ていますと、補助率等の状況について、来年度も心配な状況でございました。今、44%増えたなど、いろんなプラスの情報いただきましたので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

確かに高齢化率は 19%から 20%で、県下でも一番率が低いという意味では元気な町であるという状況です。しかしながら、少子高齢化というのは段々進んでいくわけですし、やっぱりこの障がい者の方も元気な方も一緒になって朝日町の礎や絆をつくっていききたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

2 教育分野の財政支援について

朝日町長

2 つ目もまた要望させていただくわけですが、障がい者施設に絡んだ形です。

朝日町は、昨年度に視察していただきましたあさひ園には、今、450 名ぐらいの園児がいます。小学校も 4 月には 1 年生から 6 年生までの在校生

が1,007人でした。今現在は998名ですが、県下で一番のマンモス校という状況です。そういう状況の中で、教員とか介助員とか学習指導員の方々が一生懸命子どもたちと一緒に頑張っていますので、その現状について説明をしながら要望をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、「特別支援教育における介助員、学習支援員の配置支援について」を申し上げます。

通常学級に在籍する児童生徒のうち、発達障がいの可能性があり、特別な教育的支援を必要とする児童生徒は約6.5%という調査結果が出ています。このような状況で、学校担任が単独で授業を行い、特別な教育的支援を必要とする児童生徒や個々の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を全て行うことは難しいことは御理解をいただけたと思います。

そこで、特別な教育的支援を必要とする児童生徒を直接または間接的に支援する職員を配置して、教職員とチームで質の高い教育活動を提供していく必要があることは周知のとおりです。

学校における特別支援員、教育支援員の配置や職務内容については、教育委員会が、支援を必要とする児童生徒等の状況に応じ雇用、配置をしており、当町における配置実績は年々増加し続けているのが現状です。

国は、特別支援教育支援員について、所要の地方財政措置を講じているとの平成27年12月21日の中央教育審議会の答申があります。市町における機会均等を図り、合理的配慮の提供という観点を踏まえ、普通学級においても発達障がいのある児童生徒等への教育的な対応を強く求められておりますので、ぜひとも、特別支援教育支援員及び学習支援員配置の財政支援について、県のほうから国へのさらなる援助の御進言をいただきたいと願っています。

以上がこの要望ですが、今現在、朝日小学校では、先ほど申し上げました998人のうち特別支援学級の児童数は36名です。また、中学校では3名ということで、小学校では6クラス、中学校では1クラス。それから、普通学級における特別支援が必要な児童生徒は、小学校で40名、中学校で24名ということで、かなり多くの方がこの制度が必要ということですので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

知 事

特別支援教育支援員についてお話いただきました。チームで対応していくということの重要性であると思います。

県の特別支援について、市町教育委員会で取り組んでいただいている部分について少し御紹介しますが、まず、特別支援学級は、市町教育委員会

の申請を踏まえて設置しており、平成 28 年度は小中学校合わせて 1,029 学級、前年度比で 42 学級増を設置していきまして、朝日町では 7 学級、前年度比 2 学級増としています。ちなみに、この平成 28 年度の特別支援学級の認可率は、全県平均が小中学校で 89.9%ですが、朝日町は満額認可をさせていただいております。

それから、LDやADHD等の発達障がいのある子どもたちについては、通級指導教室を順次増設させていただいております。

それから、特別支援学級の在籍児童生徒数が多い学校や、市町の特別支援教育の拠点となる学校を中心に、県単独措置の非常勤講師を配置させていただいております。県全体で 151 人、朝日町では 2 人を配置させていただいております。

これは、教育の場面ですが、特に発達障がいのLDやADHDの子どもたちは、早期の発見、そして個別の指導計画を立てることが極めて重要であり、三重県は、全国唯一の児童精神科専門医療機関であります、あすなろ学園で「チェックリスト in 三重」、CLMという、早期に保育園や幼稚園で発達障がいをしっかりと把握して、その子どもごとに個別に指導計画を立てるというノウハウを持っています。福祉や教育を超えて、発達障がいの子たちの指導相談に乗れるような「三重発達障がい支援システムアドバイザー」の研修に各市町の皆さんに来ていただくという形もさせていただいております。

このノウハウは全国からも注目されていきまして、学校の場面のみならず、さまざまな場面で御活用いただき、町における発達障がいの相談体制を充実させていただくということにも、我々もぜひそういう協力はしていきたいと思っています。

一方で、町長がおっしゃっていただいたとおり、この特別支援教育支援員の財源措置については、各市町に対する交付税の基準財政需要額に依拠して措置をされるというような形になっておりますので、県が給与を負担する範囲の人材ではないんですが、今町長がおっしゃっていただいたように、各市町の交付税の基準財政需要額に依拠して措置をされるわけですので、交付税措置が必要な分だけちゃんとなされるようにというようなことで、国に対してしっかり要望をしていきたいと思っています。

それから、文部科学省は、来年度に向けて、発達障がいの児童生徒の通級指導について、加配でやっていくのではなくて基礎定数化していこうというような議論もしています。これは、基礎定数化されたらいいなと思う部分もあるのですが、柔軟性に欠ける部分があります。加配で、学校の人数に応じて加配をしていくほうがいいケースもそれぞれあるので、国の動きをしっかり注視し、今後の国の動きによっては、市町の皆さんと県がワ

ンボイスになって、しっかり国に対して地域の実情を訴えていくということが必要であろうと思っております。

いずれにしましても、先ほど、障がい者の皆さんの働く場の受け皿のところについてお話をさせていただき、ここで今、学校の教育面での障がいをもっている皆さんの対応ということで、連続するお話をさせていただいて、大変重要であると思いますし、朝日町において積極的に取り組んでいただいていることは大変感謝申し上げる次第であります。

朝日町長

交付税というのは 100%ではないものですから、今、介助員や支援員とかで 19 人がいらっしやいまして、適切な形の中で対応してもらっています。簡単に計算をすると、約 2,500 万円から 3,000 万円というふうな予算が必要です。予算がどうのというのではなくて、やっぱりこれは必要だという形の中で朝日町としては取り組んでいきたいと思っておりますので、今日、知事がおっしゃったいろんなやり方とか、また今後御指導いただきまして、より充実していけるような体制にしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

3 旧東海道まちなみ整備について

朝日町長

旧東海道、これは徳川家康の関ヶ原の合戦の次の年、1601 年に江戸から京都まで、415 年経っているわけですが、この朝日町も延長で約 3 キロ、旧桑名藩という状況です。なんとか、「歴史文化のかおる町」とうたっておりますので、この旧東海道を整備をしていながら、「まち・ひと・しごと」、地方創生の形の中に位置づけていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。

それでは、まず、1 つ目に、朝日町における歴史文化遺産についての御紹介をして、2 つ目に、現在の旧東海道の状況を説明させていただきます。3 つ目に、旧東海道のまちなみ整備計画策定についての現在の取組み状況、最後に、朝日町からの要望、こういう 4 つの中でよろしくをお願いいたします。

それでは、まず、1 つ目に、朝日町における歴史文化遺産について説明させていただきます。

朝日町は数多くの歴史文化遺産を有しています。中でも舍利容器は国指定重要文化財であり、唐三彩は日本で一番古いと東京の文化財研究所の方と話をした思いがあります。それから、次に国指定重要文化財である舍利

容器が出土している白鳳時代の縄生廃寺跡や、森有節が再興した万古焼の窯跡などの重要な遺跡が所在しているほか、この町からは著名な国学者の橘守部を輩出しています。さらに、旧東海道においては、東海道中膝栗毛それから東海道名所図解、東海道五十三図解などでは、行き交う旅人に焼き蛤を提供していたことが描かれています。現在も歴史街道の面影を残す一里塚や常夜燈が残っています。

このように朝日町は古くから旧東海道に面した村や町として発展してきました。また、丘陵地では、新たなまちづくりが進められ、平成22年度に実施された国勢調査では人口増加率全国1位の基礎自治体となって、平成25年には人口1万人を超えるまでに至っています。

次に、現在の旧東海道の状況を説明いたします。

旧東海道は、町内の縄生、小向、柿の3つの地区を縦断し、各地区の沿道には歴史的資源が多く残っています。縄生地区では、真光寺や、桑名の七里の渡しから一里の地点にある一里塚と桜の堤や創業1910年の造り酒屋などがあります。小向地区には、近鉄朝日駅付近の樹齢300年のエノキや「語らいの広場」、国の登録有形文化財である旧街道の朝日町資料館、それから、参勤交代の大名が籠を降りて一礼したという徳川ゆかりのお寺である浄泉坊があります。柿地区には、春のウォーキングでにぎわう桜並木や西光寺、常夜燈などがあり、街道沿いの施設等の歴史と文化にふれることができます。このため、三重県主催の歴史街道ウォークや鉄道事業者等主催の東海道ウォークなどが企画され、最近では旧東海道を散策される方々が増加しています。

旧東海道沿線には数多くの歴史文化遺産が集積しているものの、来訪者への浸透度は低い状況にあります。また、歴史的街道であるがゆえに、道路の幅員も狭く、安全な歩行空間が確保されていないという状況です。さらに、そういう状況の中から自動車を利用する側からも利用しづらい道路となっています。また、沿道沿いの施設の老朽化や標識の混在など、旧東海道を訪れた人への配慮が不足している状況です。こういうことから、歴史文化の継承とともに地域活性化につながる交流資産として活用するため、昨年度策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重要施策の一つとして旧東海道まちなみ整備を位置付けたところです。

次に、旧東海道まちなみ整備計画の策定についての現在の取組み状況について、説明いたします。

これまでに、基礎調査として町民アンケート調査を実施しました。調査では、旧東海道のまちづくりや道づくりに関するアイデア等を発掘することを目的に実施しまして、780名から回答がありました。回収率は44.1%です。自由意見も多く寄せられておりまして、住民の方の関心も高いこと

がうかがえました。現在は、町民アンケートや交通量調査結果を参考にし、旧東海道沿線地区、縄生、小向、柿の住民の代表の方々に、まちなみ整備に関する自由な意見を伺う場として、ワークショップを実施しているところです。

このような取組を進めている中、最後に、朝日町からの要望といたしまして、旧東海道まちなみ整備計画の策定をはじめ、国の社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）の採択や予算確保における支援及び計画に基づくハード・ソフトの取組における技術的支援、さらに、旧東海道を生かした近隣市町との連携や県の参画、財政的な支援等、いろいろたくさん申し上げましたが、どうぞよろしく願いいたします。

知 事

街道は、昔から人と人が出会って文化が交流する出会いの場だったので、非常に人気があります。明日、歴史研究会の全国大会が津市で行われますが、伊勢街道とかも含めたいくつかの街道をその後、みんなでウォークしてもらおう形で、全国から歴史好きが集まって、街道をテーマにいろいろ議論をしてもらおう会があるのですが、それほどに今、街道は人気があると思います。

今おっしゃっていただいたことの1つ目の旧東海道まちなみ整備計画については、国に提出する予算確保にあたって必要な助言や情報提供をやらせていただきたいと思っておりますし、事業着手後においても、そういう支援をさせていただきたいと思っております。都市政策課が担当ですので、ぜひお話をさせていただければと思います。

それから、立地適正化計画というのに位置付けていくことになるのですが、その策定についても支援していきたいと思っておりますので、御検討いただければと思います。

それから、広域については、この3月まで行っていた三重県観光キャンペーンで、去年の9月から今年の3月まで、北勢地域の約45キロに及ぶ旧東海道の一つなぎの地図を作り、各宿場をめぐる東海道踏破スタンプラリーというのを実施し、全7宿の完全踏破者が724名に達するなど多数の方に参加いただきました。先ほど町長からも御紹介ありましたような地域資源をはじめ、情報発信や周遊してもらおうような仕組みなど、県が担うべき役割についてしっかりと果たしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

朝日町長

この旧東海道については、先ほど知事からも言われた桑名地区から四日

市、最後は鈴鹿峠の麓の宿の関宿、もう一つ向こうに宿があったわけです。そういうふうな宿を再興としようというのではなくて、本当に東海道中膝栗毛の中で十返舎一九が、町屋川の堤で下りたときに、江戸から来て15日間過ぎて、当時は1,000人か1,500人しかいなかったのですが、いいところだなと感じたとのことで、町の人たちが文化を今までずっと養ってきたというようなそういう状況があります。このような営みといいますか、本当に大事にしながら、そして、昔は「伊勢国朝日郡繩生村」というようなところですが、そういう状況を、今の朝日町の中で生かしながら、今の子どもたちが、将来、朝日町でよかったと感じる取り組みをやっていきたい。1、2年で、一夕一朝でできる事業ではありませんので、ちょっと値打ちを持ってやっていきたいと思っていますので、ぜひ、長くおつきあいいただきますようお願いを申し上げます。

(3) 閉 会

知 事

栗田町長、ありがとうございます。人口が増えているそういう町だからこそ、多様な町民の皆さんが生き生きと安心して暮らせるようにというように思いで、この障がい者の皆さんの支援なども積極的に取り組んでいただいているのだと思います。そういう積極的な取組、それから、人口も増えてたくさんの方が来てもらっているのですが、地域のアイデンティティをしっかりとみんなを持ってもらいたいというそんな思いでの、一番最後の東海道の話だったのではないかなと思っています。いずれも重要なことだと思いますので、ぜひ、今後とも連携して取り組んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

今日は、どうもありがとうございました。